

令和８年度
10 月号

★教育目標　郷土を愛し、未来を築く人間の育成
・健康な生徒（体）　・創造する生徒（知）
・実行する生徒（意）　・感動する生徒（徳・情）
★重点教育目標
「互いに認め合い、学び合う生徒」の育成

二海郡八雲町東雲町 31 番地1
E-mail：yakumo-jh@town.yakumo.hokkaido.jp

後先を考える。

八雲町立八雲中学校長　植　田　資　世

前期が終了します。この半年で生徒たちはたくさんのことを経験しました。では私たち教師は彼らに何を伝えることができたのか。節目ごとにそんなことを考えます。

大人は子どもたちにたくさんのことを望みます。学力や体力、人間性、様々です。最近では情報の判別などという面倒な力も。そんな中で校長としてもっとも強く望む力は「自分で考える」力です。

青雲祭が終わりました。残念ながらインフルエンザのせいで直前に１クラスが閉鎖となりました。合唱など全ての計画がゼロに。学級担任は必死に考えていました。何をどうすれば生徒のためになるのか。登校生徒も今できること、すべきことをたくさん考えたと思います。その結果当日は舞台に穴を空けることなく最後までやり切りました。もちろん彼らが目指していたものには足りなかったと思います。それでも誰一人否定する者はなく、温かい拍手。素晴らしいクラスだからだと思いました。そして、本校全校生徒のすごいところはどの発表にも全力の賛辞をおくるところです。それは先輩、後輩、仲間の努力を認識しており、相手にとってどういう反応が適しているのかを「考えて」いるからです。

人生は選択の連続です。進学、就職、大きな岐路での選択はもちろん、日常でも「晩御飯何を食べようか？」…これも選択です。そして自分の選んだ未来が現在にやってきます。どんな未来でも受け入れざるを得ない。これが「現実」です。私はよく「自分で考えなさい」と言いますがこの時大切なのは「後先」も含まれることです。例えば、天候を考えずに準備なく外出…予報通りの雨、ずぶ濡れ、発熱…。あるいは大切な友人にその時の気分で発言、友人が傷つく…。悪いことばかりでもありません。学校祭の演劇、自分は目立つことが苦手、考えるよりも挑戦！～意外な自分を発見。良いこともあります。「後先」を考えるとは未来に訪れる「現実」を想像することです。それを受け入れる準備をすることであり、これを「言動に責任を持つ」というのでしょう。

八雲中学校の生徒には「考えること」をたくさん経験してほしいと考えます。「なぜそうするのか」後先を考える経験を。

生徒と先生が一丸となった素晴らしい青雲祭でした。たくさんのご参観をいただき誠にありがとうございました。後期も励みます。

青雲祭ではたくさんの制作物があります。廃棄するものも多いのです。ごみを減らすべく細かく整理してくれる公務補さん。お礼を言うと「毎年の風物詩だね」と嬉しそうに笑顔で話してくれました。支えてもらっています。